

番号	冊数	教科書名	課	語	文例
1	1	上級日本語	第一部 1	オギャア	オギャアと生まれて大きくなって、働いて年をとって、やがてだれでも死んでしまう。
2	1	上級日本語	第一部 1	ゆっくり	生きるとは、ゆっくり生まれることだ。
3	1	上級日本語	第一部 1	はっきり	十代のころ、わたしどもは、まだはっきりとした目的を持っていません。
4	1	上級日本語	第一部 1	すっかり	すっかり大人になってしまうと、いくら考えても不可解なことに時間をむだ使いするのはばかばかしいとばかり、考えることをやめてしまいます。
5	1	上級日本語	第一部 1	くよくよ	でも、なにかとくよくよ思い煩うことの多い人は、宇宙のことでも考えると、捕まって身動きもできなかった迷いから、ふっと抜け出したりするものです。
6	1	上級日本語	第一部 1	ふっと	でも、なにかとくよくよ思い煩うことの多い人は、宇宙のことでも考えると、捕まって身動きもできなかった迷いから、ふっと抜け出したりするものです。
7	1	上級日本語	第一部 2	どンドン	山根氏は、良いことであれば、経験しないことでも作家としてどンドン書くつもりである。
8	1	上級日本語	第一部 2	ちゃんと	作家は本をタダで出版社からもらえていると思っている人もいるが、僕はちゃんと買っている。
9	1	上級日本語	第一部 2	ちゃんと	ちゃんと読んでから、感想を添えて手紙をくれる人もうれしい。
10	1	上級日本語	第一部 2	ちゃんと	名前を書くのを忘れていくせに、FAX番号はちゃんと覚えていてくれたということがうれしい。
11	1	上級日本語	第一部 2	いらいら	返事が来ないといらいらするのは、贈ったことをいつまでも覚えているからだ。
12	1	上級日本語	第一部 2	わくわく	贈り物を贈る時、相手がそれを喜んでくれるかどうか考えて、わくわくする気持ち。
13	1	上級日本語	第一部 2	ドキドキ	贈り物を贈る際、誰と誰に贈ろうかと考えて、店を見て回る時のドキドキした気持ち。
14	1	上級日本語	第一部 4	そろそろ	今、物質は先進国において、そろそろ過剰になり始めているのである。
15	1	上級日本語	第一部 7	すーっ	一度口に出して読んでみると、すーっと思えられてしまう愛誦性が、この歌の魅力の一つだろう。
16	1	上級日本語	第一部 7	ひんやり	が、提出歌は、恋愛の歌には珍しく、ひんやりしたゼリーのような印象だ。
17	1	上級日本語	第一部 7	あつあつ	燃え上がる恋の炎、あつあつの仲——などと形容される状態とはまた違った、静かさと、それゆえの深い激しさとを、秘めた一首である。
18	1	上級日本語	第一部 7	ゆらゆら	そういえば、私たちが魚だったあの頃、ゆらゆら揺れる藻の陰に憩いながら、語り合ったわねえ。
19	1	上級日本語	第一部 9	きちん	あるいは、箱の中のビー玉を一定の形にきちんと並べた後に、箱の外からショックを与えると、形は崩れる。
20	1	上級日本語	第一部 9	はっきり	それでも、これほどの差がはっきり出たのである。
21	1	上級日本語	俳句	のたりのたり	春の海終日のたりのたりかな
22	1	上級日本語	詩	オロオロ	寒サノ夏ハオロオロ歩キミンナニデクノボウト呼バレ
23	1	上級日本語	短編小説	ニヤリ	彼はいつもの席に座っていたが、僕を見るとニヤリとして聞いた。
24	1	上級日本語	短編小説	ちゃんと	差出人はちゃんと彼の名になっているが、中身は彼の注文とはまるで違うんだ。
25	1	上級日本語	短編小説	ちゃんと	コピーもちゃんと送って来る。
26	1	上級日本語	短編小説	ちゃんと	何しろ彼の好みや何かまでちゃんと知っているんだからね。
27	1	上級日本語	短編小説	ちゃんと	住むところはちゃんとある。
28	1	上級日本語	短編小説	ちゃんと	作りつけの家具がちゃんと整っているのだ。
29	1	上級日本語	短編小説	ゆっくり	ところが、ゆっくり音楽を楽しむことはできなかった。

30	1	上級日本語	短編小説	いらいら	しかし音楽がこんなにとぎれとぎれでは、聞いていてもいらいらするばかりだ。
31	1	上級日本語	短編小説	ふらり	スイッチを切り、おれはふらりと部屋を出た。
32	1	上級日本語	短編小説	しっかり	それでもよっぽどしっかり窓を締め切って、完全に防音をしないことには、町の騒音が流れこんでくる。
33	1	上級日本語	短編小説	むしゃむしゃ	おれはそのレコードをむしゃむしゃ食べてしまい、次にせんべいレコードをかけてみた。
34	1	上級日本語	短編小説	めっきり	学校から帰る父の姿には、前よりもめっきり疲れが見えた。
35	1	上級日本語	短編小説	キラキラ	しかしお父さんはそんなことは顔にも出さず、無関心な目で、その人のおびたしい本の書棚や、古い骨董物の家具や、キラキラ暗い光りのなかで光る東洋風の壁掛の織物などを見まわすだけでした。
36	1	上級日本語	短編小説	ひっそり	しかし落胆したことには、あの人の家にはまだ灯はついていず、戸にはカギがしまり、ひっそりとしていました。
37	1	上級日本語	短編小説	ポロポロ	そして、ほとんどポロポロになっている壁掛の端を引きちぎって巻き、それにマッチで火をつけて、口にくわえました。
38	1	上級日本語	短編小説	じっと	ついにお父さんは僕のほうへ来て、半透明になりながら、じっと僕の手を握り肩を抱き寄せました。
39	1	上級日本語	短編小説	じっと	お父さんはきげんのよい時の癖で、じっと僕を見ながら、外套の中でしずかに指を鳴らしていました。
40	1	上級日本語	短編小説	くつきり	それというのにもここに名前を出て来る友人たちに、あきらかになお若さの印象がくつきりとあった自分のことだから。
41	1	上級日本語	短編小説	はつきり	しかしろくに話し合ったこともないそれらの人たちの個性的な思い出は、そのお子さんの印象とかさなってはつきり残っているのである。
42	1	上級日本語	短編小説	いそいそ	そのことは、たとえば福祉作業所の遠足の日など、夕暮にかれらが帰って来るバスを約束の場所で待っている、おもに母親や祖母たちのかたまりのなかで聞くとともにしに聞いている話、また実際にバスが着いての、いそいそとした子供たちと家族の再会の様子であきらかだ。
43	2	上級読解	STEP1 1	ぼーっ	疲れて家に帰ってきて、もうなんにもする気がしないときなど、ついテレビをつけると、なんだかにぎやかに騒いでいたり、その日のスポーツの結果を繰り返し映したりしているから、ぼーっとしてしまう。
44	2	上級読解	STEP1 1	パッパッパ	見ている番組が終わると今度はもの足りなくなって、チャンネル切り替えのコントローラーを探しだし、パッパッパッと、じつに便利に画面を変えていく。
45	2	上級読解	STEP1 1	すっかり	それですっかり生活のリズムが狂ってしまう。
46	2	上級読解	STEP1 1	ぼんやり	その時間に頭を使って読書をする、会話を交わすというのではなく、みんな私と同じようにぼんやりして、光り輝く画面を眺めてアホになっていたのである。
47	2	上級読解	STEP1 4	はつきり	お茶を濁す：はつきり言わないで、ごまかす
48	2	上級読解	STEP1 5	ホッ	気がついて、先ほどの給料袋を「気持ちだけは頂いておく」と息子に返しに行くと、「いいよ、いいよ」と言いながらも、内心ホッとした様子で受け取ってくれた。
49	2	上級読解	STEP1 6	ぎっしり	米国では、フランスパンの兄貴分のような硬くて大きなパンに、肉や野菜がぎっしり詰まったものが主流。
50	2	上級読解	STEP1 6	ガブリ	ガブリかみつく食べ方も迫力があつた。
51	2	上級読解	STEP1 6	ガツン	「ガツン」という前に、「ガブリ」とやらなくてはいけないのかもしれない。
52	2	上級読解	STEP1 6	ガブリ	「ガツン」という前に、「ガブリ」とやらなくてはいけないのかもしれない。
53	2	上級読解	STEP1 7	オズオズ	あっ怒られるな、と一瞬思った。でも、もう一度オズオズと言った。
54	2	上級読解	STEP1 7	ちゃんと	わけもわからず呆然とする私を、父は顔に青筋をたて、にらみ下ろすと、「ちゃんとやってみろ。おまえが壊したんだろう。それとも、ジーツと見ているうちに、筆立てが自然にパカッと割れたのか」

55	2	上級読解	STEP1 7	パカッ	わけもわからず呆然とする私を、父は顔に青筋をたて、にらみ下ろすと、「ちゃんとってみろ。おまえが壊したんだろ。それとも、ジーンと見ているうちに、筆立てが自然にパカッと割れたのか」
56	2	上級読解	STEP1 7	ハッキリ	「どうだ、違うだろ、ハッキリしろ、これからも、ずっと、そうしろ」と命令した。
57	2	上級読解	STEP1 9	たっぷり	ふろあがり湿布薬を背中や足にたっぷりとすり込み早々と寝てしまった。
58	2	上級読解	STEP2 1	はっきり	先生は励ましたつもりだろうが、なにを、どの程度、どうすればいいのか、はっきりしない。
59	2	上級読解	STEP2 1	せかせか	「頑張る」は、どこか、せかせかした感じだ。
60	2	上級読解	STEP2 3	ハッ	先日もそんな車中、「東京都〇〇区の〇〇さん、最寄りの電話口までおいでください」といったあの呼び出し放送が流れ、ハッと現実の世界へ戻されてしまった。
61	2	上級読解	STEP2 3	ゆったり	自分の世界でゆったりとしている時間を他人の都合で中断されるのは何とも腹立たしい。
62	2	上級読解	STEP2 4	がっくり	包丁で指でも切れば実害があるし、また料理がうまくゆかないのがっくりきて、かえってストレスが溜まるものなのだそう。
63	2	上級読解	STEP2 4	たっぷり	ついでに、ワイシャツ、肌着もたっぷり持っていったほうがよろしい。
64	2	上級読解	STEP2 4	ソクソク	単身赴任者を見ていると、日本の男の繊細さ、気弱さがソクソクと迫ってくる。
65	2	上級読解	STEP2 6	こちこち	原稿では「poor」となっていたのに、緊張して、上がって、こちこちになっていたせいでしょ、「pure」と発語してしまったのです。
66	2	上級読解	STEP2 7	ケロッ	当の本人たちは、ほんの1時間後にはケロッとして「今日の晩ごはん、何にします？」なんてことになる。
67	2	上級読解	STEP2 7	うろろ	まず、どうしたらよいかわからずに、周辺でうろろしているものの、積極的な介入をしないタイプ。
68	2	上級読解	STEP2 8	せっせ	その一方で、電車に乗っている間中、せっせと鼻の掃除をする人や、自分の髪をかたときも休まずいじる若い女性など、目をあけてみてはられないイメージにしばしばでくわすのも事実だろう。
69	2	上級読解	STEP2 9	わくわく	録画しておいたビデオをわくわくして見始めたら吹き替えだったというような時は、本当にがっかりしてしまう。
70	2	上級読解	STEP2 9	がっかり	録画しておいたビデオをわくわくして見始めたら吹き替えだったというような時は、本当にがっかりしてしまう。
71	2	上級読解	STEP2 10	カアカア	お世辞にもうまいといえない演奏に合わせて、たくさんのカラスがカアカアとがなりたてるという、シューールな光景だったのだが、この間から、ちょっと様子が違っている。
72	2	上級読解	STEP2 10	ぶつぶつ	「いいんだ。これで受かったら安いもんだ」といい、ぶつぶつと何ごとか唱えながら、手を合わせていた。
73	2	上級読解	STEP2 10	ばんばん	人気がないのを確認して、彼は鈴がついている布切れをかまかせに振りまわしたあげく、ばんばんと拍手を打ち、「お願いします、お願いします」といいながら、何度も頭を下げていたのである。
74	2	上級読解	STEP2 10	おろおろ	親はおろおろしているのに、受験する本人が、「どこかに、受かるでしょ」といったりして、「こんなに親が心配しているのに、その態度は何だ」と、もめた。
75	2	上級読解	STEP2 10	こっそり	緊張感がないどころか、母がどこに合格してもいいようにと、貯えておいた入学金を、父親がこっそり使い込んでしまった。
76	2	上級読解	STEP2 11	きちんと	もし、安全管理の責任者が、勇気をもってきちんとしたリスク・コミュニケーションを行えば、多くのパニックは回避できる。
77	2	上級読解	STEP2 12	うとうと	昼のニュースが流れるテレビの前のソファで、男性社員数人が目を閉じてうとうととしている。

78	2	上級読解	STEP2 12	すっきり	設計事務部門で働く男性(40)も「昼食後に仮眠すれば、頭がすっきりした状態で午後の仕事に向かえる」と話す。
79	2	上級読解	STEP2 12	うっかり	堀教授の実験では、仮眠は午後のうっかりミスを防止する効果もあった。
80	2	上級読解	STEP2 14	くっきり	空には雲ひとつなく、稜線がくっきりと浮かび出て、夕焼けに染まった稜線をはさんで上下の空間に広がる色の濃淡。
81	2	上級読解	STEP2 14	ふと	冷たく澄んだ空気の中を、ふと木の香が流れる。
82	2	上級読解	STEP2 14	ひっそり	その並木道の置くに、境内というものもなく、ひっそりと小さな社が立つ。
83	2	上級読解	STEP2 15	ちよん	主人がちよんとついたら消えた。
84	2	上級読解	STEP2 15	けろっと	いきり立ってみても、けろっと明かりはついている。
85	2	上級読解	STEP2 15	ちゃんと	主人が触ればちゃんと機能するのだから、壊れてはいない。
86	2	上級読解	STEP2 15	ふと	ふと気がついた。
87	2	上級読解	STEP3 1	しっかり	ジャケットともなれば、私の体をしっかりと包んで苦楽をともにした仲ではないか。
88	2	上級読解	STEP3 2	カチン	目指す品物がないので若い女性店員に「どこに売っているんですか」と聞いたら、「ないものを聞くな」といわんばかりの態度を取られてカチンときた。
89	2	上級読解	STEP3 2	カチン	それに、店員に商品の知識がないとカチンときますね。
90	2	上級読解	STEP3 2	きちんと	そんなに難しいことではないんだから、商品のことをきちんと覚えてお客に説明してほしいですね。
91	2	上級読解	STEP3 2	びゅうびゅう	人間はやっぱ太陽の向いているほうが北風がびゅうびゅう吹いているよりも気持ちがいいわけですよ。
92	2	上級読解	STEP3 2	ブスッ	白石さんは「私はお天気屋だから店員が不親切だったり、ブスッとした顔でいられるとカチンとくる。同じ生きていくのに、嫌な感じのする店に行きたくないでしょう」と言い切っている。
93	2	上級読解	STEP3 2	カチン	白石さんは「私はお天気屋だから店員が不親切だったり、ブスッとした顔でいられるとカチンとくる。同じ生きていくのに、嫌な感じのする店に行きたくないでしょう」と言い切っている。
94	2	上級読解	STEP3 3	ゴタゴタ	その、一見「古道具屋」かと思える店に入って行ったのは、ゴタゴタと置かれたランプや書きもの机の奥に、カレンダーらしきものが見えたからである。
95	2	上級読解	STEP3 3	びっくり	出しぬけに声をかけられて、私はびっくりして飛び上がりそうになった。
96	2	上級読解	STEP3 3	ニヤリ	すると、それまで面白くもない、という顔をしていたその店の老人が、突然ニヤリと笑ったのである。
97	2	上級読解	STEP3 3	ピツパリ	こんなボロアパート、明日も知れない今の私にはピツパリかもしれない。
98	2	上級読解	STEP3 3	ハッ	揺さぶられてハッと目を覚ます。
99	2	上級読解	STEP3 3	びっくり	私はびっくりして起き上がった。
100	2	上級読解	STEP3 3	ぼんやり	「何をぼんやりしてるの?」と、聡子が呆れたように、「早くしないと出張でしょ。列車に遅れるわよ」
101	2	上級読解	STEP3 3	ふと	ふと枕もとを見て、ギョツとした。
102	2	上級読解	STEP3 3	ギョツ	ふと枕もとを見て、ギョツとした。
103	2	上級読解	STEP3 3	ドキドキ	私はドキドキしながら、それが起こるのを待っていた。
104	2	上級読解	STEP3 3	ガラッガラッ	ガラッガラッと列車の戸が開く。
105	2	上級読解	STEP3 3	ホッ	座席に落ちつくと、私はホッと息をついた。

106	2	上級読解	STEP3 3	ほどほど	若い子を開いてにするのも、ほどほどにしておけ、という天の声かもしれない。
107	2	上級読解	STEP3 3	すっかり	私は聡子がすっかり機嫌を直してお弁当などを買っているのをそっと横目で見ながら、戻ったら「彼女」とは別れよう、と思っていた……。
108	3	日本への招待	テーマ1	ギューツ	(イラスト)女なんだから！ ギューツ
109	3	日本への招待	テーマ1	ばりばり	学生時代に男性と同様に社会で活躍したいと言っていた友人には、結婚せずに夢を追いかけてばりばり働いている人もいれば、子どもを産んで専業主婦になった人もいます。
110	3	日本への招待	テーマ1	きちんと	これからの日本社会のあり方をきちんと見すえた、十分な審議を望みたい。
111	3	日本への招待	テーマ2	シーン	多いときはクラスの3分の1ぐらいが手を挙げた。それが3学期に入ったとたん、シーンとなった。
112	3	日本への招待	テーマ2	はっきり	なかには、理由がはっきりしない子もいることでしょう。
113	3	日本への招待	テーマ2	たっぷり	「学校に行かないと、たっぷり時間があるって、やりたいことを思いきりやれた」
114	3	日本への招待	テーマ2	ゆっくり	そして、行かない自分で、しばらくすきなようにゆっくり暮らしていけばいいのです。
115	3	日本への招待	テーマ2	ほっ	だから知人が「東京へ来ないか」と言ってくれた時、実はほっとした。
116	3	日本への招待	テーマ2	きちんと	大人は私たちの言い分をきちんと聞いてほしい。
117	3	日本への招待	テーマ3	すごすご	ベータさんの授業に出るのは初めてだったA子さんは、何のことだかわけがわからず「WHY(なぜ)」とただで、すごすごと退散した。
118	3	日本への招待	テーマ3	たっぷり	18歳の高校生からは「『だらしな』ズボンのすそは地面を掃除するものであり、彼らはボランティアで掃除する良い人」という皮肉たっぷりの投書が寄せられ、掲載した。
119	3	日本への招待	テーマ3	ダブダブ	中2の息子は、ポケットがたくさんついたダブダブズボンに、前でぶらぶらしているベルト姿で塾通いをしている。
120	3	日本への招待	テーマ3	ぶらぶら	中2の息子は、ポケットがたくさんついたダブダブズボンに、前でぶらぶらしているベルト姿で塾通いをしている。
121	3	日本への招待	テーマ3	ダブダブ	私にルーズソックスにダブダブズボンで授業参観でもしろと言うのか。
122	3	日本への招待	テーマ3	ダボダボ	ダボダボのズボンをはいて何が悪いんですか？
123	3	日本への招待	テーマ3	ズルズル	男はほぼ全員がズルズルズボン、女もルーズソックス一色。
124	3	日本への招待	テーマ3	ダボダボ	だから私は、ソックスやダボダボのズボンなどは、そうしたいのならしらいたいと思う。
125	3	日本への招待	テーマ3	きちん	若い人だって、そんな服装に目もくれずきちんと着こなしている人も多かった。
126	3	日本への招待	テーマ3	ムカムカ	不愉快を感じることもあるのは皆同じですが、その度にムカムカしては結局、自分が損をしてしまいます。
127	3	日本への招待	テーマ3	じわっ	手足の痛みのせい、少年たちの思いがけない優しさに触れたせい、じわっと涙ぐんでいる自分に気が付いた。
128	3	日本への招待	テーマ3	ぼーっ	彼女も遊びに来るけれど、紅茶を飲みながら一日中、ぼーっと小説を読むのが「とびきり幸せ」と思う。
129	3	日本への招待	テーマ3	あくせく	小さいころからあくせく勉強はしなかった。
130	3	日本への招待	テーマ4	そこそこ	朝、日本のサラリーマン(別名、社畜)は食事もそこそこに駅にかけつけ、この非人間的な“容れ物”に乗りこむ。
131	3	日本への招待	テーマ4	ぐったり	ぐったりとして会社にたどりつき、それから仕事をするのだから、日本のサラリーマンはタフでなければ務まらない。
132	3	日本への招待	テーマ4	コトコト	早番のオフィス・ガールが歩道にコトコトと足音を響かせて急ぐ。
133	3	日本への招待	テーマ4	いそいそ	青年は少し胸をそらして答え、そのままいそいそと正面のエスカレーターに足を運んだ。
134	3	日本への招待	テーマ4	ヒソソリ	ヒソソリとしたビルの中を銀色のエスカレーターだけが、かすかな音をあげ、バリカンのような踏み板を上へ上へと運びあげている。

135	3	日本への招待	テーマ4	キュッ	青年はエスカレーターの上で、もう一度背すじを伸ばし、ゆるんだネクタイをキュッと締めた。
136	3	日本への招待	テーマ4	グングン	エスカレーターは相変わらずグングンと上へ登る。
137	3	日本への招待	テーマ4	くよくよ	あまりくよくよしすぎても良い結果は生まれない。
138	3	日本への招待	テーマ4	ふと	【出る杭の真実】ふと、考えてみた。なぜ「出る杭は打たれる」という言葉が平気で使われたのか？
139	3	日本への招待	テーマ5	しげしげ	熊本で生活して1年以上が過ぎ、ようやく日本人たちから、しげしげと見つめられたり、くすくす笑われたりするのに慣れました。
140	3	日本への招待	テーマ5	くすくす	熊本で生活して1年以上が過ぎ、ようやく日本人たちから、しげしげと見つめられたり、くすくす笑われたりするのに慣れました。
141	3	日本への招待	テーマ5	くすっ	流ちょうとはいえないヘリーさんの日本語に、客席の大人からくすっと笑いがもれた。
142	3	日本への招待	テーマ5	じっと	だが、子どもたちは、みなヘリーさんをじっと見つめていた。
143	3	日本への招待	テーマ5	ばらばら	メンバーの出身国や母国語はばらばら。
144	3	日本への招待	テーマ5	くしゃくしゃ	セサルさんは顔をくしゃくしゃにして小さな手を順番に握りしめた。
145	3	日本への招待	テーマ6	のびのび	受験戦争もなく、子どもはのびのびと学び、遊ぶ。
146	3	日本への招待	テーマ6	のんびり	老後はのんびりと年金生活。
147	3	日本への招待	テーマ6	そこそこ	「40グラムそこそこで5万円もする化粧クリーム」
148	3	日本への招待	テーマ6	ハッキリ	第一に、カネはいくらあれば豊かとかんじられるか、その基準がハッキリしない。
149	3	日本への招待	テーマ6	ボケーツ	カネを追いまわすのはもうやめにして、ボケーツと過ごせる時間をつくり出すことである。
150	3	日本への招待	テーマ6	せっせ	そんな要望にこたえようと、テレビや週刊誌がまた、せっせとコマ切れの刺激を送りつづけているのだ。
151	3	日本への招待	テーマ6	ボケーツ	ことしの春、ニューヨークへ行ったとき、バッテリー公園のベンチにすわって、ボケーツと海を見ている老人を見かけた。
152	3	日本への招待	テーマ6	ボケーツ	数時間後に、ぼくが用事を終えてふたたびそこを通りかかると、老人は相変わらずボケーツと海を見ている。
153	3	日本への招待	テーマ6	ボケーツ	しばらくの間、その老人の横顔をボケーツと見つづけてしまった。
154	3	日本への招待	テーマ6	ゆったり	時間にひたすら追われ、左脳を強く刺激される生活は、安らぎや静けさを感じることのできる、ゆったりとした空間、いわば「右脳空間」へのニーズを必然的に高める。

番号	冊数	教材名	語	文例
1	1	トットちゃん	チラリ	おじさんは、はじめて、トットちゃんをチラリと見て、いった。
2	1	トットちゃん	パチパチ	先生は、カールしたまつ毛をパチパチさせ、パーマのかかった短い内巻の毛を手でなでながら説明にとりかかった。
3	1	トットちゃん	パタン	するとお嬢さんは、まずフタを開けて、ノートを取り出した、と思うが早いか、パタン！とフタを閉めてしまいます。
4	1	トットちゃん	パチパチ	先生のまつ毛が、そのときを思い出したように、パチパチと早くなった。
5	1	トットちゃん	ツルツル	ごみ箱のフタと同じなんだけど、もっとツルツルで、いろんなものが、しまえて、とってもいいんだ！
6	1	トットちゃん	パタパタ	一時間目に、机のパタパタを、かなりやると、それ以後は、机を離れて、窓のところに立って外を見ている。
7	1	トットちゃん	じーっ	その間、先生がどうしてるか、といえば、一段落つくまで、ひとり教壇で、じーっと待ってるしかない。
8	1	トットちゃん	ゴシゴシ	ふさの余裕は、もともと、あまり無かったんですが、それに、黄色のクレヨンで、ゴシゴシふさを描いたんですね。
9	1	トットちゃん	ギザギザ	それが、はみ出しちゃって、画用紙をどかしたら、机に、ひどい黄色のギザギザが残ってしまって、ふいても、こすっても、とれません。
10	1	トットちゃん	ギザギザ	まあ、幸いなことは、ギザギザが三方向だけだった、ってことでしょうか？
11	1	トットちゃん	ギザギザ	旗竿を左はじに描きましたから、旗のギザギザは、三方だけだったんでございます。
12	1	トットちゃん	キラキラ	電車の窓が、朝の光をうけて、キラキラと光っていた。
13	1	トットちゃん	わーい	次の瞬間、トットちゃんは、「わーい」と歓声をあげると、電車の教室のほうにむかって走り出した。
14	1	トットちゃん	ぎゅっ	ママは、スカートのはしを、ぎゅっ握ったまま、トットちゃんにいった。
15	1	トットちゃん	がっちり	その人は、頭の毛が薄くなっていて、前のほうの歯が抜けていて、顔の血色がよく、背はあまり高くないけど、肩や腕が、がっちりして、ヨレヨレの黒の三つ揃いを、キチンと着ていた。
15	1	トットちゃん	ヨレヨレ	その人は、頭の毛が薄くなっていて、前のほうの歯が抜けていて、顔の血色がよく、背はあまり高くないけど、肩や腕が、がっちりして、ヨレヨレの黒の三つ揃いを、キチンと着ていた。
15	1	トットちゃん	キチンと	その人は、頭の毛が薄くなっていて、前のほうの歯が抜けていて、顔の血色がよく、背はあまり高くないけど、肩や腕が、がっちりして、ヨレヨレの黒の三つ揃いを、キチンと着ていた。
16	1	トットちゃん	チョコチョコ	幼稚園のとき、ハサミを口の中に入れて、チョコチョコやると、「舌を切ります」と先生が怒ったけど、何回もやっちゃったってこと。
17	1	トットちゃん	ズルズル	涙が出てきたときは、いつもでも、ズルズルやっていると、ママに叱られるから、なるべく早くかむこと。
18	1	トットちゃん	ビリビリ	なにしろトットちゃんが夕方、外から帰って来たとき、どの洋服もビリビリで、ときにはジャキジャキのときもあったし、どうしてそうなるのか、ママにも絶対わからないのだけれど、白い木綿でゴム入りのパンツまで、ビリビリになっているのだから。
18	1	トットちゃん	ジャキジャキ	なにしろトットちゃんが夕方、外から帰って来たとき、どの洋服もビリビリで、ときにはジャキジャキのときもあったし、どうしてそうなるのか、ママにも絶対わからないのだけれど、白い木綿でゴム入りのパンツまで、ビリビリになっているのだから。
19	1	トットちゃん	ビリビリ	結局、今朝、家を出るとき、ママの手製の、しゃれたのは、どれもビリビリで、仕方なく、前に買ったのを着てきたのだった。
20	1	トットちゃん	ビックリ	トットちゃんは、このとき、まだ時計が読めなかったんだけど、それでも長い時間、と思ったくらいなんだから、もし読めたら、ビックリしたに違いない。
21	1	トットちゃん	たっぷり	つまり、たっぷり四時間、先生は、トットちゃんの話聞いてくれたことになるのだった。

22	1	トットちゃん	びっくり	それにしても、まだ小学校一年生になったばかりのトットちゃんが、四時間も、ひとりでしゃべるぶんの話があったことは、ママや、前の学校の先生が聞いたら、きっと、びっくりするに違いないことだった。
23	2	エッセイ集	そっくり	Aさんはこどものときはひげがなかったからまねられなかったが、人並にひげがはえ出すと同じことをはじめて、年とともにおやしそっくりになっていった。
24	2	エッセイ集	ぼっくり	親の影響は少し時がたってからぼっくり出現する。
25	2	エッセイ集	たっぷり	財布の中にも使わないことはわかっているけどたっぷり金が入っていないと安心できない。
26	2	エッセイ集	こっそり	ひとさまのことばかりで、自分はどうかと言われそうだが、AさんからGくんまでの中に筆者はこっそりもぐりこんでいる。
27	2	エッセイ集	すっきり	そのとたん、一件落着とばかりに、贈り物は贈り物の衣を脱ぎ、すっきり私の物になる。
28	2	エッセイ集	さらさら	手紙の中にこめられていた相手の感情も、さらさらと流れて無くなる。
29	2	エッセイ集	バラバラ	そのオオカミから出た動物が、なぜそんなにバラバラになったかと聞かれ、人間がそうしたのだと答える。
30	2	エッセイ集	ニヤリ	すごいですネ、と彼は溜息をつきながら、ニヤリと笑う。
31	2	エッセイ集	ニヤリ	そのニヤリに引掛かる。
32	2	エッセイ集	チクリ	犬をめぐって、人間の驕りをチクリとやりこめた青年に、何かお返しがあった。
33	2	エッセイ集	ホッと	余分なチップを払うことで、何だかホッとした。
34	2	エッセイ集	ぶらぶら	「あなたは昼間いつもぶらぶらしているようだけど、一体いつそんな大きな物を動かしてるの？」
35	2	エッセイ集	ずらり	何処から闇のルートを手繰ったのか、日本のM社製のジープをしばしば十台前後、住宅地で高いのために道路を使用するのは御法度なのにずらり！
36	2	エッセイ集	さっぱり	「一昔前までは、アメリカに面白いようにドイツの車を輸出(?)できたが、今はさっぱりよ。」
37	2	エッセイ集	スイスイ	ところが戦後になって、再び泳げる時代になり、実際に泳いでみると、怪我をしたハンディや長い間練習をしていなかったハンディというものがまるで嘘のようにスイスイ泳ぐことができた。
38	2	エッセイ集	どンドン	泳ぐことがどンドンおもしろくなり、やれば記録が上がり、なおやればもっと上がるんじゃないかと、その都度感動みたいなものを味わうことができた。
39	2	エッセイ集	ちゃんと	当時はちゃんとした状態で残っているプールなんかなく、空襲で壊れたプールをみんなで修理して大会を開いた。
40	2	エッセイ集	さっぱり	「しかしいっそ、きれいさっぱり、一度滅びたほうがいいですよ。」
41	2	エッセイ集	ムカツ	「あなたは方舟に入れるつもりでいるのね？」と私はムカツときた。
42	2	エッセイ集	モゴモゴ	そういうとはじめて彼は言葉を失い、口をモゴモゴさせて困った顔になった。
43	2	エッセイ集	がっかり	日本国内にしか普及しなかった二宮金次郎は、カーネル・サンダースの敵ではない。そう思って、がっかりした。
44	2	エッセイ集	うっかり	ついうっかり日本の感覚で、ネパールの子どもにとっては信じられない大金を渡してしまった。
45	2	エッセイ集	ヨレヨレ	泥まみれでヨレヨレの格好であった。